山岳科学総合研究所 友の会会報

2012年7月　第5号

夏本番　にぎわい始めた上高地河童橋

もくじ

涸沢談話会報告 ………………………………………………… 2
第3回現地研修会＆おとなのキャンプ報告 ……………………… 3
上高地クエスチョン ……………………………………………… 3
会員リレーコラム ………………………………………………… 4〜5
・竹原文子　「涸沢談話会」
・高附潮子　「初めての参加、驚きのひとつひとつ」
・田口美智子　「上高地　梓川　生きものがたりに参加して」
上高地ファミリー・ハイキングを行います ………………………… 6
第4回友の会現地研修会 ………………………………………… 6
編集後記 ………………………………………………………… 6

涸沢談話会　報告

上高地談話会（涸沢談話会）が、7月5・6日に開催されました。山岳科学総合研究所は山岳に関する様々な課題やテーマを中心に、主に信州大学松本キャンパスで一般市民を対象に上高地談話会を開催しています。

出前講座ともいえる涸沢談話会は3回目で、回数を重ねるごとに参加者も増え、今回は46名が参加しました。

5日、正午前後に横尾を出発、それぞれのペースで涸沢を目指し、15時半前後には全員涸沢ヒュッテに到着、小屋の皆さんが温かく迎えてくれました。

16時から研究所所属の朝日克彦先生から「涸沢カール氷河・地球の歴史」に関する研究と知見、また梅干野成央先生からは「涸沢の山岳建築―その歴史にみる山岳・雪氷・建築」と題しての講話がありました。

造山作用と氷河が削り取ったカール形成の遠大な歴史、その山中でわずか100年にも満たない時間の中で、道を作り山小屋を営んできた人間の歴史のつながりを面白く聞かせていただきました。

また、現地で聞く話はリアリティーに満ち、参加者からの質問も多く予定の時間を大幅に超えました。

研修会の後はお待ちかねの懇親会。ヒュッテ心のこもった料理をつまみに、消灯ぎりぎりまで懇親を深めました。

次の日は朝からどんよりした空模様でしたが、朝食の後屋外テラスでカールの状況を見ながらの解説があり、さらに知識を深めることができました。

残念ながら下山は雨。例年になく多い雪渓を注意して下り、10時頃には参加者全員無事横尾に下山しました。

涸沢談話会は独特な雰囲気があります。まず、第一は登山であること。講話の内容が直接山に深くかかわるものであること。そして何よりもカールに抱かれた小屋が会場であることなどです。

今回も素敵なテーマを用意していただきました。研究所の先生方に感謝しますとともに、次回も楽しみにしたいと思います。一度も参加されたことがない会員の皆様、来年はぜひ行ってみましょう。え、歳だから無理・・いえいえ大丈夫、76歳の女性も元気に参加されていましたよ。案内人もいますから安心して山行できます。

第３回現地研修会＆おとなのキャンプ　報告

7 月 21・22 日、3 回目となる現地研修会と大人のキャンプを開催しました。

午後１時ウェストン広場に講師ほか会員 19 名が集合。梅雨明けというのにあいにくの雨、講師の東城先生にはたくさんの資料を用意していただき、濡れながらも小さな昆虫や苔の見本を手に熱心に説明していただいた。

午後 4 時前には「神降の地」ともいわれている明神地区にある山岳科学総合研究所（これからは「山科研」と省略）上高地ステーションに到着。有形登録文化財に指定されている旧養魚場のあたりに生息している岩魚等の魚類の説明をしていただき、雨の中での研修会はひとまず終わった。

日帰りの会員はここで帰られ、いよいよ待望のおとなのキャンプの始まりだ。まずは本棟お勝手で乾杯。そして手分けをして夕食の準備をし、雨のため夕食会場を旧囲炉裏小屋として、薪ストーブに火を入れバーベキューが始まった。

嘉門次小屋名物の岩魚の塩焼きもメニューに加わり、伊那谷での研修会の折山口会長、市川副会長からいただいておいた美味しい酒に舌鼓をうち、雑談の中で夜は更け親睦を深めることができた。

翌朝は 6 時前には起床（みなさん朝は早いですね。歳のせいかな）。お勝手に朝食の準備をして、残さないように食べ、使用する前以上にきれいに掃除をして 7 時半には現地で解散した。

今回の現地研修は、「上高地　梓川・生きものがたり」と銘打って開催しました。

かつて梓川は飛騨高山側に流れていたことがわかっていますが、オビカゲロウの遺伝子解析でもこの事実が裏付けられたこと、清水川や岳沢の苔に生息するカメノコヒメトビゲラの話や、シリアゲムシの特殊な繁殖生態のことなど、ふだん私たちが気にも留めない生き物が、太古からの地形の変化や進化のメッセンジャーとして重要なのだなと思いました。

また、上高地地域の外来種の進入と人のかかわりや、道路沿線での旺盛な繁殖の実態、本来いる筈のないホタルも遺伝子解析でどこから来たものか特定できる話など、興味の尽きない現地研修でした。

学究多忙の中を、資料作成・サンプルの準備と、雨をもいとわず私たちのために熱心に語り伝えてくださった東城先生に感謝を申し上げます。

（上高地の地質・地形上の成り立ちについては 4 回目の現地研修会で詳しく学ぶことができると思います）

？上高地クエスチョン？

河童橋の上流左岸、上高地ビジターセンター裏の園路沿いを流れる清水川。湧き出てわずか 200m 余りで梓川本流にそそぐが、六百山の伏流水といわれているその水量は、一年を通してほぼ変わることがない。

河童橋から槍・穂高方面へ向かうメインルート、清水川に架かる清水橋は多くの観光客、登山者が足を止めるビューポイントでもある。

バイカモが揺れ、カワマスが泳ぐこの清流、上高地帝国ホテルをはじめ多くの施設が飲料水として利用している。そういえば最近バイカモが減り、クロカワゴケが増えてきているようにも思える。

それにしてもこれだけの水量、六百山だけの伏流水なのでしょうか？

リレーコラム

涸沢談話会

今年の山上は雪が多いと聞いて、少し心配しながら横尾に集合しました。
今回は、老若男女 40 人以上の参加者と聞いてびっくり。
天気予報はあまりかんばしくなかったのですが、晴れ男の鈴木先生のありがたいご利益で、歩くには上々のお天気でした。
本谷橋まではみなさんおそろいで、さらに標高をあげていくのに、まあのんびりと行こうと私などは花の写真を撮ったりしてトロトロしていたのですが、みなさんのお早いこと！うら若き女子大生の参加が、みなさんを逸らせたのでしょうか？？？
上部は雪渓歩きで、涸沢ヒュッテの姿は見えどもなかなか着けない。それでも最後尾が到着してから雨が落ち始めたのは、この会の行いの良さの象徴でしょうか。

今回は、朝日先生の涸沢カールと氷河の話、梅干野（ほやの）先生の山小屋建築の話や涸沢ヒュッテの建物の歴史など、とても有意義かつ楽しいお話を伺いました。ヒュッテの山口社長、さらに親分までお出ましいただき、具体的な興味深いお話もお聞きしました。以前ジオパークで親分が、「石をみるとこれは使えるか使えないかまず考えてしまう」と言っておられたことを思い出し、雪崩の直撃するモレーンに建つヒュッテを守るための石積みや冬囲いなど、いろいろな工夫をされ、大変なご苦労を強いられていることに頭が下がりました。ノーテンキに利用させてもらっていた私は反省しきりです。
（親分、お元気ですね！とても 80 歳超とは思えません）

研修会後の慰労会は、ヒュッテも含めあちこちからのお酒の差入れも豊富で、みなさん大いに楽しみました。80 代のお元気な方もいらして、みなさんからいろいろなお話を伺い、とても楽しいひと時でした。

研究所と講師の先生方、案内人のみなさん、ご一緒できた参加者のみなさん、お世話になったヒュッテ方々、ありがとうございました。
（島村さん持参の朴葉巻き、とても美味しかったです。ごちそうさま）

竹原　文子

初めての参加、驚きのひとつひとつ

研修会前日の 7 月 20 日は県内全域で雨や雷雨となり、局地的な大雨にもみまわれました。私の住む長野市でも、すぐ近くの地域で川が増水し、避難勧告が出る状況でした。翌日の天気予報も雨もようです。
「山岳地域での研修活動は可能なのでしょうか？」中止の連絡もありませんので、あらためて案内文を読み返したところ、●荒天の場合は内容の変更はありますが原則実施します●とあります。そうなんだー、そうだけどー、現実的とは思えず、納得できないままの翌日は、犀川の泥流を横目に見て国道 19 号を南下、松本からは梓川に沿

って上高地に向かう長い道のりの途中で、予想通りの結構な降りとなりました。
念のために緊急連絡先に電話してみましたが応答がありません。いよいよ観念しまして、国道 158 号線で土砂崩れなきようと、安全祈願を胸に向かいました。
そうして到着した上高地。梓川の川面に漂う川霧にしばし見とれてしまいました。悪天候ならではの、とっておきの顔に出会えたことで、前日からの不安が、感激に置き換わる瞬間でした。
はじめての参加ですので新鮮に驚く事が多いのですが、確信したのは先生をはじめ会員の方々が、なかなかのタフガイ（死語）であろうということです。
「あいにくの雨で」にはじまるご挨拶でも、残念が本気ではなく、これはこれでという気持ちが伝わり、何だか安心してしまいました。
東城先生が、降る雨をいとうことなく沢の流れに入り、トビケラやフジウロコゴケを採取後、熱心に教えていただいた事。河童橋から明神のステーションまでの、約 4 キロの道のりでは、自然観察の余裕と、早足の逞しさに感じ入りました。
さて東城先生には、オビカゲロウ、シリアゲムシの研究の講義を受けました。はじめて耳にするこの小さな生物たちの遺伝子を調べることで、ダイナミックな地形の遷りかわりが証明できるのだそうです。小さな昆虫のサイズと仰ぎみる山々のスケールを想像するだけでも、クラクラとめまいがしそうです。今の私レベルでは昆虫の向こうに見えてくるロマンということでよろしいのでしょうか？
ここ数年歩き続けている北アルプスの山々ですが、この研修会をきっかけに、地形状の成り立ちや、動植物たちの生態について、もう少し知りたくなりました。

高附　潮子

上高地　梓川　生きものがたりに参加して

8 カ月ぶりの上高地。あいにくの雨模様でしたが、再び訪れる機会ができたことに胸が躍りました。東城先生は、冷たい水も雨も何のその、カッパもなしで懸命に教えてくださいました。

清冽な流れ、森に響く鳥の声、5 月のヒキガエルの「カエル合戦」、5 月から 6 月にかけてのニリンソウの花の群落など、上高地はいつ来てもどんな天候の時であっても、素晴らしいところです。
今回は、初めて参加した現地研修会でしたが、先生や仲間たちの和やかな雰囲気の中でバーベキューをしながら、食べて、飲んで、和気あいあいと話を交わし、遠い若かりし日を思い出させるような夜でした。リュックを背負いテントで山々を歩いた、あの頃が再び蘇ったような気持ちになりました。

微力ながら永遠の上高地を願う者の一人として、何かあればお手伝いをしたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。（地学関係の巡検の仲間がおられましたら、ぜひ声をかけていただけないでしょうか。）

田口　美智子

お・し・ら・せ

◎上高地ファミリー・ハイキングを行います

当初予定していました、上高地子供キャンプが諸般の事情により開催できなくなりました。これに替わり市民の皆さんを対象として、松本市の後援をいただき「上高地ファミリー・ハイキング」を8月19日に開催します。

会員の皆様にはすでにお知らせしたとおりですが、近くてもなかなか行く機会がない上高地、このすぐれた自然環境をステージとして様々な活動をしている「友の会」として、今後も一般市民を対象とした上高地体感ツアーといったような企画してまいりたいと考えています。

◎第４回友の会現地研修会

6月に予定していました現地研修会「上高地はジオパーク（上高地の成り立ちをみる)」をつぎのとおり仕切りなおして開催します。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

期　日：9月8・9日（土・日）
集　合：大正池ホテル前10：30
講　師：信州大学山岳科学総合研究所
　　　　山岳基礎科学部門長　原山　智　先生
会　費：宿泊者（上高地ステーション）4,000円
　　　　日帰者600円
申込締切：2012年8月20日（月）必着
※詳細はすでにお知らせしたとおりです。

◎リレーコラムを随時募集しています

日ごろ思うことや、山への思い、友の会への要望や提言などなんでも結構です。隔月で発行を予定しています会報へ「コラム」をお寄せください。

◎新規会員を募集しています

友の会ではいつでも新規会員を募集しています。現会員の皆様からも声をかけていただき、会員の拡充をはかってまいりたいと思います。自然のことを共に学び知識を深め、酒を酌み交わし少しでも人生を豊かにしたい、そんな方がおいででしたら是非事務局にご紹介ください。男女にかかわらず若い人大歓迎です。

編集後記

いよいよ夏山も本番です。気象の中期予報では、しばらく気圧配置は安定して暑い日が続きそうです。昨年の今頃は天候不順で、３回にわたって行った「上高地子供キャンプは」ほとんど雨にたたられました。

都会は猛暑、上高地も日中は25度を超える日も結構ありますが、さわやかな緑と風が心身を解き放ってくれます。

現地研修会も回を重ねるごとに充実してきています。得ることが多く、人生を豊かにしてくれる「追肥」となっています。これからも幾度か予定していますので是非ご参加ください。

（友の会会報編集委員会）

山岳科学総合研究所友の会会報　第5号
発行日：2012年7月31日
発行：山岳科学総合研究所友の会
〒390-8621　長野県松本市旭3-1-1
信州大学山岳科学総合研究所友の会事務局
TEL：0263-37-2432　FAX：0263-37-2438
E-mail：ims-support@shinshu-u.ac.jp